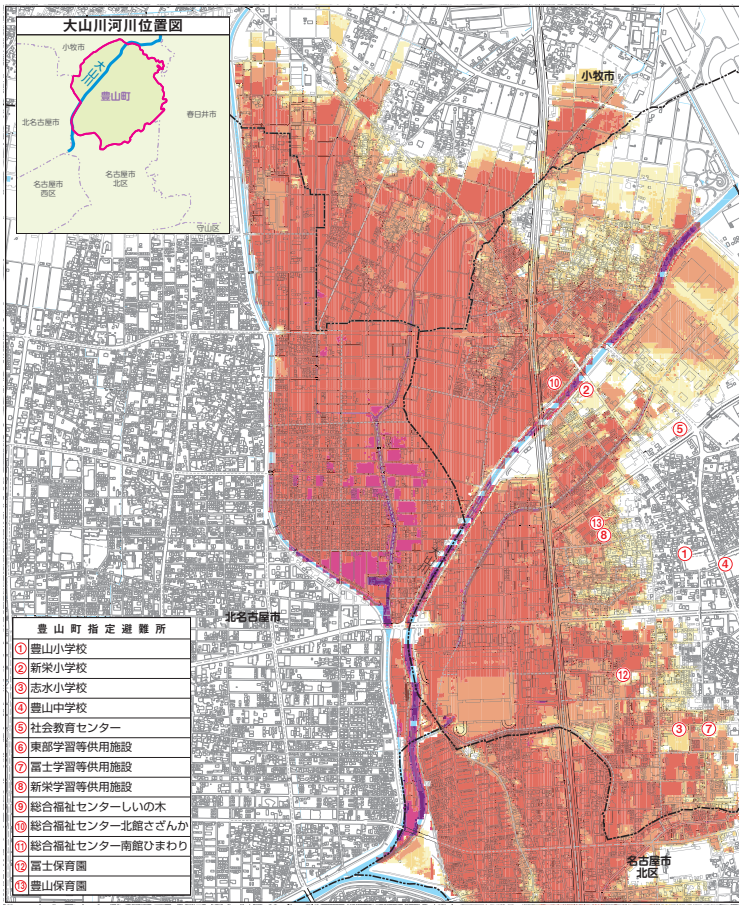
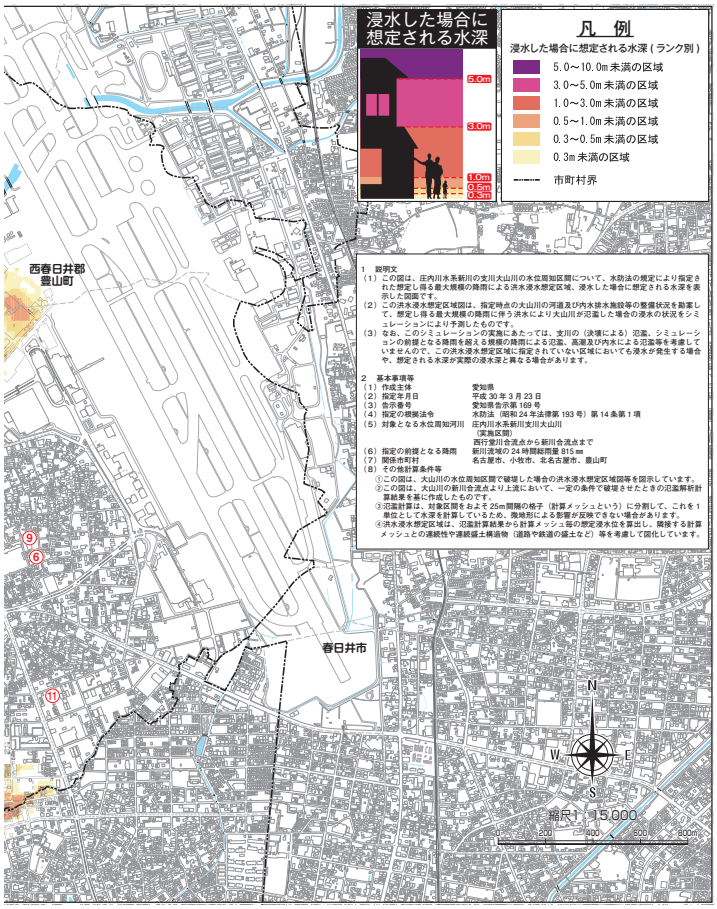
大山川　浸水想定最大規模　【外水氾濫】

ご自宅が浸水想定区域である場合P6を参考に避難行動をしてください。





1　説明文

（1）この図は、庄内川水系新川の支川大山川の水位周知区間について、水防法の規定により指定された想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。

（2）この洪水浸水想定区域図は、指定時点の大山川の河道及び内水排水施設等の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により大山川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。

（3）なお、このシミュレーションの実施にあたっては、支川の（決壊による）氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

2　基本事項等

（1）作成主体	愛知県
（2）指定年月日	平成 30 年 3 月 23 日
（3）告示番号	愛知県告示第 169 号
（4）指定の根拠法令	水防法（昭和 24 年法律第 193 号）第 14 条第 1 項
（5）対象となる水位周知河川	庄内川水系新川支川大山川（実施区間） 西行堂川合流点から新川合流点まで
（6）指定の前提となる降雨	新川流域の 24 時間総雨量 815 mm
（7）関係市町村	名古屋市、小牧市、北名古屋市、豊山町
（8）その他計算条件等	

①この図は、大山川の水位周知区間で破堤した場合の洪水浸水想定区域図等を図示しています。
②この図は、大山川の新川合流点より上流において、一定の条件で破堤させたときの氾濫解析計算結果を基に作成したものです。
③氾濫計算は、対象区間をおよそ 25m間隔の格子（計算メッシュという）に分割して、これを 1 単位として水深を計算しているため、微地形による影響が反映できない場合があります。
④洪水浸水想定区域は、氾濫計算結果から計算メッシュ毎の想定浸水位を算出し、隣接する計算メッシュとの連続性や連続盛土構造物（道路や鉄道の盛土など）等を考慮して図化しています。